

平成 30 年 11 月実施学校評価アンケート 報告

(1) 確かな学力

「2. 授業の中で満足感や達成感を持っている」について、生徒の結果を前後期で比較すると約 10 ポイントの減少があり、「子どもが授業で満足感・達成感を持っていない」状況がわかった。学習の効果をさらに上げるために次のような工夫をしている。ノートを取り方を詳しく指導し、ノートコンクールでノートの見本を掲示する数学、単元ごとにまとめのプリントを作成し、基礎学力の定着をはかっている英語、毎週の週末課題で漢字プリントをし、点検として漢字テストを実施している国語などである。また「3. 先生は授業での工夫・改善をしている」について肯定的に回答する生徒は約 75%いる。

アンケート結果をもとに考察した各学年、教科からの報告をみると、低位の生徒の特徴は「学習してから時間がたつと忘れてしまう」、「習ったこととちがう表現の問題では答えられない」、「まず学習に意欲を持ってない」というものであった。そして教職員側の反省点として、「週末課題は各学年で取り組んでいたが、しっかりやり切らせることができていなかった。」「教科によっては昼休みや放課後の補習なども行ったが、十分な支援ができなかった。」「学習のようすをチェックする部分がおろそかになっていた」という報告があった。

現在本校は授業改善に取り組んでいるところであるが、「学年の取り組みや各教科の取り組みを学校全体で共有する。」そして「授業ではめあてをしっかりと提示し、それに応じた振り返りを徹底する」。などを進め、その上で、粘り強く一人一人に合わせたサポートをしていきたい。

(2) 豊かな心・健やかな体

「1. 進んで挨拶をしている」については生徒全体で約 83%、保護者の約 80%、そして教職員では約 74%が肯定的に答えている。前期と比べてみると生徒で約 1 ポイント、教職員では約 16 ポイントの減少がみられているが、保護者の回答には変化がほとんど見られないことから考察した。生徒の肯定的な回答を前後期で学年別に比較すると、1 年生は約 8 ポイント増加、2, 3 年生は約 6 ポイント減少といった結果が見られる。上級生が見本になっていない部分は残念である。生徒同士、とくに後輩から先輩へのあいさつはよく見受けられるので、この結果を受けて、教職員から生徒への働きかけをしっかりと行いたい。保護者の回答にほぼ変化がみられないことは、地域では生徒の姿もちがっていることと推察する。挨拶はコミュニケーションの第一歩として、教職員が率先垂範して進んであいさつができるようにしていきたい。

「6. 早寝・早起き・朝ごはんなど規則正しい生活が送れている」という項目は今年度よりはじめたものだが、約 75%の生徒が肯定的な回答をしている。前期と比べても約 2 ポイント増加し、学校生活ではよい生活習慣のリズムができているように見受けられる。生徒はチャイムが鳴るまでに教室に入り、授業の準備もできているようすであり、時間を大切に生活を進めている。教職員と保護者の回答には少し差がみられる部分は学校と家庭での生徒の見せる姿の違いともいえる。生徒達の変化に気づけるように、日頃から家庭との連携を働き掛けていきたい。

(3) 学校・地域について

「1. 先生に気軽に質問・相談しやすい」という項目では、全学年 80%を越える生徒が肯定的に答えており、前期よりも約 1 ポイント増加している。また保護者・教職員の肯定的な回答も増加していることはよい傾向である。上記の挨拶とも関連付け、積極的に教職員と生徒・保護者ともにより関係を築きしていきたい。また、今後も教職員が生徒に寄り添う姿勢であることを心がけていきたい

「4. 学校・学級だより、HPで学校の様子が伝わってくる」の項目では、保護者の約 90%近くが肯定的な回答をしている。学級だよりやHPでの情報の発信は、生徒への情報発信のみならず、保護者・地域に学校の取り組みや教育活動への理解と信頼を深めるために必要不可欠なもので、有効な方法でもある。保護者・地域が学校に関心を持ってもらうことは大切なことであり、その期待にも答えていきたい。また、今年のように自然災害に対応するため、早めに情報を発信できるようにしたい。

回答率

7月評価	生徒	1年 100%	2年 100%	3年 100%
	保護者	65%	教職員	100%
11月評価	生徒	1年 100%	2年 100%	3年 100%
	保護者	68%	教職員	100%